

生物の生息状況の把握

都市的地域

福岡県田川市における活動組織の例

- 本地域が、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているカスミサンショウウオ、ゲンゴロウ及びシュレーゲルアオガエルが生息する自然豊かな環境であることへの関心が希薄であった。
- 水田ビオトープを2ヶ所造り、田んぼの生き物調査を行うことで、疎遠となっていた地域コミュニティの再構築と自然環境保全の意識が高まった。

【地区概要】

- ・取組面積30ha（田29ha、畑1ha）
- ・資源量 開水路6.2km
農道7.8km
ため池4箇所
- ・主な構成員 農業者、その他

・活動内容

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- 本地域が絶滅危惧の生き物が生息し、自然豊かな地域であることへの関心が希薄であった。
- 地域コミュニティの低下により、地域の一体感がなく、住民の活気がなかった。



取組内容

- 水田ビオトープを2ヶ所造り、田んぼの生き物調査を行う。
- ビオトープづくりのパンフレットを広報活動の一環として作成。
- 地域外のボランティアサークルと生き物の生息環境を整備するため、山林の伐採等を行う。



取組の効果

- 疎遠となっていた地域コミュニティが生き物調査を通して、活発に行うことができ、地域コミュニティの再構築を図ることができた。
- 水田ビオトープの造成や生き物調査を保育園等の教育の一環として行うことにより自然環境保全の意識が高まった。
- **生き物の生息環境の改善により、蜷が川に戻り、今では300匹以上の蜷を確認できるようになった。**

